

道徳

1 目標

学校における道徳教育は、学校の教育活動全体を通じて、道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養うことが目標とされている。

道徳の時間においては、この道徳教育の目標に基づき、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によってこれを補充、深化、統合し、道徳的価値及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚を深め、道徳的実践力を育成するものとする。

2 評価の観点及びその趣旨

観点	道徳的心情	道徳的判断力	道徳的実践意欲と態度	道徳的習慣
趣旨	道徳的に望ましい感じ方、考え方や行為に対して、逆に、道徳的に望ましくない感じ方、考え方や行為に対して、生徒がどのような感情をもっているか。	道徳的諸価値についてのどのようにとらえているか、また、道徳的な判断を下す必要がある問題場面に直面した際に、生徒がどのように思考し判断するか。	学校や家庭での生活の中で、道徳的によりよく生きようとする意志の表れや行動への構えが、どれだけ芽生え、また定着しつつあるか。	特に基本的な生活習慣をどの程度身に付け実践できているか。

3 改訂の要点

- 道徳教育は、道徳の時間を「要」として、学校の教育活動全体を通じて行う。
道徳教育は、道徳の時間だけでなく、各教科、総合的な学習の時間、特別活動等でも行う。道徳の時間は、道徳の時間以外における道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によって、それらを補充、深化、統合し、道徳的価値及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚を深め、道徳的実践力を育成する。
- 活用しやすい道徳教育の全体計画、道徳の時間の年間指導計画を作成する。
各教科等、学校の教育活動全体で道徳教育を充実させるために、全体計画、年間指導計画の整備を図り、年間を通して具体的に活用しやすいものを作成する。その際、校長の方針の下に、道徳教育推進教師を中心として全教員が共通理解を図って作成する。
道徳教育の全体計画を作成するにあたっては、特に次の点に留意する。

- ・各教科等における道徳教育にかかわる指導の内容及び時期を記入する。その際には、それぞれの学校で特に重点として取り組んでいる内容から取り上げていく。
- ・道徳教育にかかわる体験活動や実践活動の時期等を記入する。
- ・道徳教育の推進体制や家庭や地域社会等との連携のための活動等を記入する。
(別葉にして加える)

- 生徒の発達の段階や特性等を踏まえて指導内容の重点化を図る。
道徳教育を進めるに当たっては、中学生という発達の段階や特性等を踏まえ、道徳教育推進教師を中心に全教師の共通理解を得ながら指導内容の重点化を図ることが大切である。
どのような内容を重点的に指導するかについては、最終的には、各学校において生徒や学校の実態を踏まえ工夫するものであるが、社会的な要請や今日的課題についても考慮し、次のような配慮を行うことが求められる。
 - ・生徒の自立心や自律性を育成する。
 - ・自他の生命を尊重する心を育成する。
 - ・規範意識を育てる。
 - ・社会参画への意欲や態度を身に付けさせる。
 - ・国際社会に生きる日本人としての自覚を身に付けさせる。

- 道徳の時間の指導に当たっては、次の事項に配慮する。
 - ・道徳教育推進教師を中心とした指導体制の充実
校長や教頭などの参加による指導、他の教職員とのチーム・ティーチングなどの協力的な指導、養護教諭や栄養教諭などの協力を得た指導などを工夫して行う。また、教材や図書の準備、掲示物の充実、資料コーナーの整備を図ったり、道徳の時間に関する授業研修を実施したりするなど、道徳教育推進教師が中心となって全教職員が協力して進める。
 - ・体験活動を生かすなどの指導の充実
職場体験活動やボランティア活動、自然体験活動などの体験活動の中で感じたことや考えたことを道徳の時間の話し合いに生かすなどの工夫をする。これらの体験活動は事前に体験活動を行う意義を生徒に十分に理解させ、活動についてあらかじめ調べたりすることなどにより意欲をもって活動できるようにしたり、事後に感じたり気付いたりしたことを自己と対話しながら振り返り、まとめたり、伝え合ったりすることなどにより他者と体験を共有したり、広い知識につなげたりすることができるようにする。その際、道徳の時間で直接的な体験活動そのものを行うのではないことに留意する。
 - ・魅力的な教材の開発や活用
道徳の時間において、生徒が道徳的価値の自覚を深めるとともに、そのことを通して人間としての生き方についての考えを一層深めることができるように、先人の伝記、自然、伝統と文化、スポーツなどを題材とし、生徒が感動を覚えるような教材の開発や活用を通して、生徒の発達の段階や特性等を考慮した創意工夫ある指導を行う。
 - ・表現し考えを深める指導の工夫
自分の考えを基に、書いたり議論したりするなどの表現する機会を充実し、自分とは異なる考えに接する中で、自分の考えを深め、自らの成長を実感できるようにする。そのために、生徒が自分の意見がどのようなことを根拠にしているのか、どんな理由によるものなのか、その拠り所を明らかにするようにし、「なぜ」「どうして」と更に深く自己や他者と対話することで、自分自身を振り返り、自らの価値観を見つめ、見直せるようにする。
 - ・情報モラルの問題に留意した指導
個人情報の保護、人権侵害、著作権等に対する対応、危険回避やネットワーク上のルール、マナーなどの情報モラルに関する指導を配慮する。その際、情報モラルに関する題材を生かしたり、情報機器のある環境を生かしたりして、ネット上の書き込みのすれ違いなど他者への思いやりや礼儀の問題及び友人関係の問題、情報を生かすときの法やまじりの遵守に伴う問題など、多岐にわたった内容を取り入れる。

4 展開例

1) 主題名 共に生きる社会 4 - (3) 公正・公平 第1学年

2) 資料名 「ゴールをめざして」(出典 文部省 中学校読み物資料とその利用「主として集団や社会とのかかわりに関すること」)

3) ねらい だれに対しても公平に接し、差別や偏見をもたないように心がけることの大切さに気づき、よりよい社会を実現しようと努める心情を育てる。

指 指導の重点が道徳的心情・判断力・実践意欲と態度のどの側面にあるのかを明確にすることで授業展開の方向づけをする。

4) 評価の観点 だれに対しても公平に接し、差別や偏見をもたないように心がけることの大切さに気づき、よりよい社会を実現しようと努めることに喜びを感じている。【道徳的心情】

評 評価の観点として授業の中で期待する生徒の姿を明らかにしておき、指導と評価の一体化を図る。

5) 主題設定の理由

- ・ねらいとする道徳的価値について(略)
- ・生徒の実態について(略)
- ・資料について(略)

6) 学習指導過程

	学習活動	主な発問と予想される生徒の反応	指導上の留意点と評価(◇)
導入		指 他に、アンケート調査結果等の資料の提示や写真、VTR、音楽CDなどを用いて視覚的・聴覚的に印象付けるなど多様な工夫が考えられる。	指 主題について学ぼうとする意欲を高め、ねらいとする道徳的価値にかかわる問題の発見や意識化を図る。
	1 高齢者福祉施設での体験学習を振り返る。	○高齢者福祉施設訪問では、どんなことに気がつけたか。 ・施設利用者の立場に立って活動すること。 ・施設利用者に喜んでもらえる活動を工夫すること。	・ねらいとする道徳的価値を自分自身の問題として受け止められるように、実際に行った体験学習について想起させる。
	2 資料を読む。	指 資料の内容を深く生徒に受け止めさせるために、スライドやVTRで見せたり録音による資料に構成して聞かせたりするなど、資料の特性を生かす提示を工夫することも考えられる。	・資料の記述にとらわれすぎないようにするため、あらすじや主人公「健」とその周囲の状況を通読後に場面絵で確認する。
展開	3 「健」の気持ちについて話し合う。	○「健」が「宏典」にいらだつようになったのは、どんな気持ちからだろうか。 指 ねらいに迫るために生徒の発言や心の動きなど学習過程の各段階で予想される生徒の様相を示す。	・「健」が「宏典」のことを思いやる気持ちからいらだっていることに目を向けさせる。
		・「宏典」にリレーは無理だ。 ・「宏典」は絶対に無理をしている。 ・「宏典」にけがをさせたくない。 ・無理をしないほうが「宏典」のためだ。	指 適切な助言や補助発問を行い、話し合いの効果を高める。また、生徒の多様な感じ方・考え方が引き出せる学級の雰囲気をつくるのが大切である。
		○「健」の「もやもやした気持ち」とはどんな気持ちだろうか。 ・僕がまちがっているのだろうか。 ・僕はまちがってはいない。 ・「宏典」は絶対に無理をしている。 ・僕は本当に「宏典」のことを心配しているんだ。	・自分中心の考えから離れられない「健」の気持ちに共感させる。

4	自分自身を振り返り、ワークシートに書く。	○「宏典、頑張れ。」とさげす「健」はどんなことに気付いたのだろうか。 ・自分の考えがまちがっていたんだ。 ・「宏典」は心から走りたいと思っていたんだ。 ・「宏典」の望むとおりにさせてあげるのが一番いいんだ。 ・「宏典」はこんなに頑張っているから、心配することはなかったんだ。 ◎無言で「宏典」の肩をたたきながら、「健」はどんなことを考えていたのだろうか。 ・「宏典」が走るのは無理だと決めつけていた自分はよくなかったな。 ・「宏典」の気持ちをわかっていなかったことはよくなかったな。 ・「宏典」の気持ちを理解しようとするのが本当に「宏典」を大切にしているということになるんだな。 ・「宏典」がやる気になっていると、僕もなんだか気持ちがいいな。	・「健」が「宏典」の思いを理解したことに気付かせる。 ◇資料中の登場人物の行為や心の動きに共感している。(観察、発言) 評 話し合いにおける生徒の感じ方・考え方を可能な限り観察や発言によりとらえ、指導の改善に生かすようにする。 ・ねらいとする道徳的価値に目覚めた「健」の気持ちについての多様な考え方に触れるため、できるだけ多くの生徒が発言できるようにする。
	4 自分自身を振り返り、ワークシートに書く。	○人に対して一方的な見方をしていたことに気付いた経験はないか。今どんな気持ちかしているか。 指 書く活動を通して生徒が自分自身とじっくり向き合い、道徳的価値についての自分の思いを深めたり、よりよく生きることについての課題を考えたりできるようにする。 指 生徒一人一人が現在の自分自身を知り、よりよく生きる上での課題を明らかにする。そのために、資料を通して理解を深めた道徳的価値について、自分自身はどうであったかという視点で振り返ることができるような学習を行う。本時は道徳的心情を育てることがねらいなので、生活経験を振り返るとともにそのときの気持ちについて考えることが必要である。 評 取り組んでいる姿勢や記述から、可能な限り生徒の心の変容をとらえるようにする。	・一人一人がしっかり振り返って考えることができるように、書くための時間を十分に保障する。 ◇自分の生活を見つめ、差別や偏見をもたないことの大切さに気づき、相手を大切に生きていくことに努めることのよさを感じている。(ワークシート、観察)
終末	5 教師の説話を聞く。	指 体験談は、ねらいとする道徳的価値に根ざしたものが、また、生徒の発達の段階に応じたものが、十分に吟味する。	・教師の体験談を聞くことで、将来に向けた実践への意欲につながるようにする。
		指 他に、生徒の感想を発表させる、書く活動を取り入れる、補助的な資料(名言、ことわざ、詩、生徒作文、写真、音楽CD等)を提示するなどして生徒の考えを整理することも考えられる。	

7) 評価(期待する学びの姿) 差別や偏見をもたないことの大切さに気付いた自分の経験を想起して、考えたりワークシートに書いたりしている。

評 <道徳の時間の評価>
道徳の時間の評価は、「道徳的価値の自覚及び人間としての生き方についての考えを深めることができたかどうか」を発言や観察、ワークシートの記述等様々な面からとらえ、評価することになる。その評価をもとに、教師の指導は適切であったかを見直し、授業改善につなげることが大切である。
例) 扱った資料は、道徳的価値を自分とのかかわりで考えることのできる資料であったか。
・中心場面は、ねらいとする道徳的価値についての自覚を深める場面として適切であったか。
・ワークシートの吹き出しに書く活動は、自分自身がねらいとする道徳的価値に対してどうであったかを振り返るために適切であったか。など
道徳の時間において道徳実践力を育成するためには、このように評価と評価に基づく授業改善を積み上げていくことが大切である。また、授業中だけでなく、授業終了時の生徒の変化等を評価したり一定期間にわたる変化の様子等を見届けたりして、個に応じた指導や学級全体の指導に生かすようにする。